

毛早久毛十日止奈利爾那里親族家人諸賀朝夕乃心佐夫志美在
 志世乎思出都々一向爾戀奉里忍奉留心々波日爾添且繁留夏艸
 彌深久忘留々方無久慰奉術無久宇羅夫禮且乃美在留物可良定
 禮留式乃隨々今日乃御祭式仕奉留賀故爾御酒御饌山野海川乃
 物等乎例乃任々捧奉里且玉串乃取々爾拜美奉里仕奉良須事乃
 狀乎阿波禮刀毛宇禮志止毛宇豆那比聞食且幽冥乃神乃御許爾
 鎮居座須幸魂奇魂乃御魂乃幸比乃豫且現世爾座都留時乃聽久
 賢久直久穩志久在志御心那賀良父母乃命又親族乃主等乃現御
 業乎阿那々比助介仕奉里給比家人男女乎毛憐美給閉止齋主某
 宇奈加夫志都々畏美畏美母白須(諱辭集下)

二十日靈祭詞(用語及解釋)

◎(一)夏草乃千種乃花波吹風爾散且又咲伏夏夜乃夜渡留月波村雲爾消且又出都
 玉緒乃絶且再返里來此現世乃人乃世波云幸須倍無久爲幸須便知夏爾悔志久

悲志交事爾奈母在留(解)夏草のいろくの花は吹く風に散りては又咲き咲きて
 は又散り夜渡る月は村雲に消え隠れては又出で又隠る斯くの如く常住せぬ玉
 緒の絶えては再び還り來ぬ此の現世の習慣と人の生命は言語以て形容の爲し
 得ぬばかり爲方のない悔しく悲しき事であるとの意夏草の云々夏夜の云々は
 何れも有爲轉變の世の中の味氣なさを時候に應じたる形容詞もて表白したの
 である玉緒は絶ゆるにかけたる枕詞知夏爾は知らずといふこと◎(二)某乃命也
 汝命思乃外爾身退給比志與利親族家人諸盡波日乃盡夜波明乃明留極宇良佐備
 歎彼物思比都々在留問爾十日毛過支耳今日波早二十日止云布日爾成爾那里(解)
 某の命よ汝命がゆくりなく此の現世を退き給ひてから親族家人等諸盡も夜も
 心淋しく悲しみ歎きて物思に沈みつゝある間に十日も過ぎ今日には早二十日と
 いふ日になつたとの意宇良佐備は心淋しくの意▲其乃悔美止悲美波果志毛有
 良受歎加比居禮汝命乃果敢奈久毛身退給比志波麻陀昨日今日乃心地須留爾早
 久毛二十日止云日爾成爾那里(解)うの悔しさと悲しみは果もなく一向に歎き合
 ひてのみ居れば月日の経過つことは忘れて汝命の此の現世を去り給ひしはま
 だ昨日今日の心地するに早くまあ今日は二十日にもなつたといふ意◎(三)是乎

以耳悲美波然悲久悔美波遣方無那禮符勢米豆毛乃心遺用止親族家人打集比神
 官乎頼美參來耳忌清回利部々御酒御饌種々饌奉利耳御祭仕奉及久乎相宇豆那
 比給閉止恐美恐美母白須解そこで悲哀は然様に悲しく悔みは忘失すべき様な
 けれどせめては御祭典を仕奉りてだに心慰みにせんと親族家人等打集り齋官
 を聘して忌み清め御酒御饌種々献奉りて御祭典仕奉ることを御受諾下されと
 恐れくして白すの意▲故例乃隨々御祭仕奉留止神官等忌清廻里耳敬代乃机代
 乃物奉里置耳人々諸拜美奉留事乃狀乎美酒乃美耳聞食志持食字豆那比享座
 世止恐美恐美母白須解うて例により二十日祭を仕奉るとして齋官等潔齋し
 て例の献物捧奉りて人々拜み奉ることの狀態を其の御酒の美味きが如く善美
 に御聞取御受諾下されて御享け給へと恐れくして申すとの意

二十日靈祭詞(文例)

夏艸乃千種乃花波吹風爾散豆又咲伎夏夜乃夜渡留月波村雲爾
 消豆又出都玉緒乃絶豆再還里來奴此現世乃人乃世波云牟須倍
 爲牟須便知良爾悔志久悲志支事爾奈母在留某乃命也汝命乃思

乃外爾身退給比志與利親族家人諸晝波日乃盡夜波夜乃明留極
 宇良佐備歎支物思比都々在留間爾十日毛過豆今日波早二十日
 止云日爾成爾那里故例乃隨々御祭仕奉留止神官等忌清廻里耳
 禮代乃机代乃物奉里置耳人々諸拜美奉留事乃狀乎美酒乃美良
 爾聞食志持食宇豆那比享座世刀恐美恐美毛申須(諱辭集下)

三十日祭詞(用語及解釋)

◎(二月)日酒經過都爾關守無久朝爾歎加比夕爾語利耳十日二十日毛過支奴止思
 開邊今日波早三十日止云日爾成爾那利解昔は人の通過に關守ありて止めたり
 と聞けど月日の經過し行くにはそを塞ぎ止むる關守なくて親族等は朝に歎き
 合ひ夕に語り合ひて十日二十日も經過すと思へば今日は早三十日と云日にな
 れりとの意▲山城乃淀能川門乃水車回留月日乃淀美無久十日止過支二十日止
 流禮耳今日波早三十日乃御祭日止成奴(解)山城乃云々は回るをいはひ爲の序淀
 美は停滯の意他は解するの要なし◎(二)阿波禮汝命乃手植乃松波操乃縁其乃徳
 爾愛傳給比爾志梅乃句毛昔奈賀耳爾響禮留毛乃乎如何奈禮加毛汝命乃見延毛

◎三十日祭詞 用語及解釋

語利毛爲給波那留此乎思閉婆淋志止毛又梅志支事乃限爾奈母阿留解嗚呼汝命
 の手づから植ゑ給ひし松は其の縁を更めず愛されし梅の匂も生存されし昔の
 まゝにて馨りてあるに汝命のみ獨り奈何してかまぬ見ゆるも語りも爲給はぬの
 である此を思へば淋しとも言ひすべなく悔しきことの限であるとの意▲夏野
 乃菊毛漸々爾花咲滿豆村君志座爾婆折留可比無久朝貌乃花波香閉村君志愛爾
 婆見留可比無支乎悲志刀也虫毛鳴耳幸阿波禮止也蟬毛鳴耳幸夏乃日乃波多々
 久空毛燥可奴波真袖奈里耶利解折留可比無久は俗に折りても爲方ないといふ
 ほゞの意悲志止也虫毛鳴耳幸云々はうれを悲しとてか虫も鳴くやうであると
 の意波多々久空毛云々は雷の空に振動する時候には凡ての物が濡ふ如く燥か
 ず濡れがちなるは我袖であるとの意悲みに堪えぬからである◎三故今日乃御
 祭仕奉留止志豆例乃隨々御酒御饌擊介奉里且御靈乃前乎齋奉里慰米奉流事乃
 狀乎美耳仁宇豆那比座世止畏美畏美母白須解意かくれたる所なし▲故親族打
 集比豆今日乃御祭仕奉留事乃狀乎阿奈嬉志悦婆志止思召且相宇豆那比給閉止
 恐美恐美母白須解そこで親族打集まりて今日の靈祭仕奉ることの狀態を嗚呼
 嬉し悦ばしと思召し給ひて御受納下されと恐れくして白すとの意

三十日靈祭詞(文例)

山城乃淀乃川門乃水車回留月日乃淀美無久十日止過支二十日
 刀流禮豆今日波早三十日乃御祭日止成奴夏野乃菊毛漸々爾花
 咲滿豆村君志座爾婆折留可比無久朝貌乃花波香閉村君志愛爾
 婆見留可比無支乎悲志刀也虫毛鳴耳幸阿波禮止也蟬毛鳴耳幸
 夏乃日波多々久空毛燥可奴波真袖奈里耶利故今日乃御祭仕奉
 留止志豆例乃任々御酒御饌擊介奉利且御靈乃前乎齋奉里慰米
 奉流事乃狀乎美耳仁宇豆那比座世止畏美畏美母白須(譯辭集下)

四十日靈祭詞(用語及解釋)

◎(一)親族打寄禮婆語里歎加比獨志居禮婆思爾沈幸爲半術毛無志(解親族の打寄
 る毎に亡者のことを相語り歎き合ひ獨居すれば亡者のことを思ひ出して泣き
 沈む洵に爲方なしとの意▲漸々爾月日避里且天雲乃隅里行介村口借美梅志美
 思布心波志何乃時爾加消失幸何乃月日爾可忘耳衣幸(解だんくと月日が經過

◎三十日靈祭詞 文例 ◎四十日靈祭詞 用語及解釋

し隔りて行けど逝去給ひしことの口惜しさ悔しさに思ひ沈む心は何時にならば消失することやらむいつの月日にならば忘れらるゝことやらむ洵に忘れかねつることよとの意天雲のは隔つの枕詞◎二阿波禮某乃命能御靈也是乃靈璽爾憑座都々今日四十四日乃御祭式例乃隨々仕奉留事乃狀乎平介久聞食耳奉留多米乃御饗美良爾聞食世止恐美恐美母白須解嗚呼汝命の御靈よ是の靈璽に憑りまして今日四十四日の御祭例によりて奉仕する事の狀情を平安に聞召して献る饗饌を美きものと聞給ひ享け給へと恐れながら白すの意靈璽は字の如く位牌のこと多米は食の意御饗も饗應又馳走の意である故今日乃四十四日例乃御祭仕奉留止恐美御酒御饗奉里耳拜美奉留狀乎安介久聞食世止恐美恐美母白須解する所なし。

四十日靈祭詞(文例)

漸々爾月日避里耳天雲乃隔里行介行口惜美悔志美思布心波志何乃時爾加消失牟何乃月日爾可忘良衣牟阿波禮某乃命乃御靈也是乃靈璽爾憑座都々今日四十四日乃御祭式例乃隨々仕奉留事

狀乎平介久安介久聞食耳奉留多米乃御饗美良爾聞志持食世乃恐美恐美母白須(諄辭集下)

五十日祭詞(用語及解釋)

◎二是乃小床用合坐奉里齋比奉留官位姓名乃神靈乃前爾恐美恐美母白左久意義明瞭▲是乃神床乃前母間狹爾親族家人等打集比齋主忌清回利耳官位姓名乃神靈乃前爾白左久意義かくれたる所なし◎二晝波日乃暮留々麻傳夜波夜乃明久留極美物仁觸禮事仁附介互波一向爾汝命乃存在志之其世乃事乃美乎思比悲美歎支語其比都か在留乎解晝は終日夜も終夜何事につけても一向に汝命の現存せられし時のことのみ思ひ出しては悲み歎き語り合ひつゝあるとの意▲汝命夜現身乃惜支此世乎退耳遠支遙介支幽冥爾入坐志與利村肝乃心母空爾明志暮志耳物母得念延奴乎解汝命夜の夜は嘆息詞現身乃惜伎此世は現世界退耳は退去してにて死去のこと幽冥は神界にて死者の神靈の歸する所村肝乃は心の枕詞心母空爾は精神の落付かぬこと即ち沈みて何事も心ならぬのである明志暮志耳云々は晝夜亡人のくを思ひ暮して何の思考力もないこと他の意義は

聞えたるが如し。◎三然須資爾月日乃來經行隨爾今日波十日止云日爾毛成奴明日波二十日乃御祭日母來向比奴止其時々爾治米奉里仕奉里都々在來志間爾早川乃早久母過耳今日波母五十日乃御祭仕奉留倍支日爾奈母成奴留解然爲ながら月日の經過に隨ひて今日は十日に成つた明日は二十日の御祭日も來たと其の祭日毎に御祭事を營みて來し間に早川の水の流れの早きが如く早くもマア過去來て今日にはマア五十日祭を奉仕する日になつたといふ意。▲斯久耳毛月日波經過物加母十日二十日母來經行支耳三十日四十日乃御祭母畢過今日波母五十日乃御祭日止成奴意義かくれたる所なし。◎四故御祭仕奉留止志耳御酒御饌魚菜時乃菓物止何々乎毛齋机爾置足波志耳獻耳久乎心安久聞食享給耳意聞えたるが如し。◎五今典利去前遠世乃家乃鎮米止無窮爾鎮坐耳子孫乃八十連爾爾御祭美志久仕奉耳志米給比意里緩布事無久日爾異爾齋仕奉耳志米給閉止齋主職位姓名此家乃親族家族乃爲爾事執持耳恐美恐美母白須解日爾異爾は日に新にといふほどの意他は上に解きたる事柄である。▲行末永久子孫乃氣門高久廣久榮延行久世乎見會那波志彌張里行加牟家業乃彌繁久繁殖里行加牟子孫乃彌隆盛乎宇麻志悅美志止思召志耳守護給比助介給閉止恐美恐美母白須意義

隠れたる所なし。

五十日祭詞(文例)

是乃小床爾令坐奉里齋比奉留官位姓名乃神靈乃前爾恐美恐美母白佐久汝命夜現身乃惜伎此世乎退耳遠伎遙介伎幽冥爾入坐志與利村肝乃心母空爾明志暮志耳物母得念延奴乎然須賀爾月日乃來經行隨爾今日波十日止云日爾毛成奴明日波二十日乃御祭日母來向比奴止其時々爾治米奉里仕奉里都々在來志間爾早川乃早久母過耳今日波母五十日乃御祭仕奉留倍支日爾那母成奴留是以耳代々乃御祖等乃靈舍爾汝命乃靈主乎移奉里令坐奉里耳共爾朝夕爾齋仕奉良牟止爲耳机代乃宇豆乃御饌都物持捧奉里置耳稱辭竟奉良久今典利去前遠伎世乃家乃鎮米止無窮爾鎮坐耳子孫乃八十連綿爾祭儀美志久仕奉良志米給比意里緩奉事無久日爾異爾齋仕奉良志米給閉止齋主職位姓名此家乃親族

家族乃爲爾事執持耳、恐美、恐美母、白須、葬祭告詞集

百日靈祭詞(用語及解釋)

◎(一)ノ朝風爾木末動母須、蟬音爾驚可佐衣耳、川添乃櫻乃並木列々爾思渡世波、其花乃移布如久、其水乃返耳、豆成耳、汝大刀自命、此現世乎、避里座志波、麻太昨日、今日乃心知爲留爾、早久毛、百日止云、日爾成爾介里、解助母須は震動することにて、母須は卒の延言列々は列なれること、大刀自命は老女の尊稱、さて朝風に木末動かす云々は、其花の云々、其水の云々をいはひ爲の序花の移る水の返らすは何れも死てはかへらぬことを意味したのである、他は聞えたるが如し、◎(一)ノ二年頃乃同志見見豆波、歎支佐迷比、愛志玩弄物出豆波、思比悲志美部乃、在留爾在耳禮奴、歎支乃中爾、百日止云、布御祭日爾奈母成爾、留意義隠れたる所なし、◎(二)池波爾放豆留魚母、主戀耳岸爾阿懸登比、小垣内爾養布百鳥毛、君戀耳音爾也啼耳幸鳥虫毛、魚獸毛、親乎忍比子乎思亦心乃、誠波、負那々々悲伎爾、現身乃人止在豆波、何時乃世爾可母親乎、愛忘爾幸就乃時爾加毛、子乎愛悲志万那耳幸、解阿懸登布は水面に浮び出づること音爾也、啼耳幸は聲揚げて啼くであらうといふ義、負那々々は隨

分の意、他の意義は隠れたる所なし、◎(三)避里行久物波、日乎經都々、疎久成行久、慣止波云、閉行親族又近久仕閉志男女乃、心爾波、月爾思比、出雨爾忍出都々、何時止奈支思乎志、今日乃一日爾集爾耳、御前爾宣申志都々、幣帛御製式乃、隨々持捧介奉利置耳、稱言竟奉耳久乎、美耳爾開食世乃、畏美長美母、白須、解避り行く物は、日を経て疎遠に成行く慣とは云へど、親族又近く仕へ居りし男女の心には、月毎の命日には、思ひ出雨なと降りて物歸き時は、懐かしみながら、何時となく絶間のなき思を、今日の一日に集めて、御前に積る思を宣申して、種々の御製物献奉り、御祭仕奉ること、心を安く開召し、御受諾下されと畏れ、て申すとの意、▲故親族家人打集比耳、御祭仕奉里、各々賀取々爾、汝命乃在里志世乃、事語耳布狀乎、阿奈嫡志、悅婆志止思召耳、心毛安久、宇多樂志久、相宇豆那比給閉止、畏美長美母、白須、解宇多樂志久は、轉樂しくなり、他は總べて上に解きたる詞である。

百日靈祭詞(文例)

朝風爾木末動母須、蟬音爾驚可佐衣耳、川添乃櫻乃並木列々爾思渡世波、其花乃移布如久、其水乃返良受成耳、汝大刀自命、此現世乎

避里座志波麻太昨日今日乃心知爲留爾早久毛百日止云日爾成
 爾介里池波爾放豆留魚毛主戀豆岸爾阿藝登比小垣内爾養布百
 鳥毛君戀豆音爾也啼良牟鳥虫毛魚獸毛親乎忍毘子乎思布心乃
 誠波負那々々悲伎爾現身乃人止在豆波何時乃世爾可母親乎婆
 忘禮牟執乃時爾加毛子乎婆悲志万邪良牟避里行人物波日乎經
 都々踈久成行久慣止波云閉村親族又近久仕閉志男女乃心爾波
 月爾思比出雨爾忍出都々何時止奈支思乎志今日乃一日爾集閉
 耳御前爾宣申志都々幣帛御饗式乃隨々持捧介奉利置耳稱言竟
 奉良久乎美良爾聞食世乃畏美畏美母白須(諄諄集下)

一年靈祭詞(用語及解釋)

○(一)籬爾咲那留朝貌乃花波句閉村君志座爾見留甲斐毛無支歎乃中爾毛早一
 年乎過志邪利(解)籬に咲いて居る朝貌の花は句へど汝命の現存し給はねば見る
 力だになくて歎の中にも過さば過さるものと見ぬて早一年を過したとの意▲

壁舂爾蟋蟀啼耳秋風乃身爾志平音爾驚支耳川水乃過來志方乎思比波世婆今日
 波志母某命乃幽冥爾退座奴留去年乃某日邪利那里(解)壁舂に蟋蟀啼て秋風の身
 に浸む音に驚き覺めて過去を回想せば今日はア某命の死去し給ひし去年の
 幾日に相當したりとの意川水乃云々は過去の序○(二)阿波禮小林乃梢乃蟬毛去
 年戀止照日乃空爾音鳴暮時雲居吹以初秋風毛佐夫志美乃月乃影爾也吹明須
 耳平(解)音鳴暮は聲揚げて鳴暮すこと雲居は遠く見ゆる雲の根際佐夫志美は淋
 しさ又淋しいことよの意風が月の影に吹くとは公然ならず陰然として悲しく
 淋しきことの形容である○(三)況且奴延舂乃妻乃命今波此家乃主乃手弱女奈賀
 耳家乃事等執治米都々座爾附豆毛朝夕爾何事爾附豆可波思出忍比座那耳平(解)
 況して妻君今は此の家の主人として織手ながらも家事向萬事執り治めて居ら
 るに附けても何事につけて思ひ出しのびまさすあらうか戀しのはずには居
 られずとの意奴延舂は妻の枕詞手弱女は女子のこと女子は男子よりも織弱な
 るものであるから家乃事業云々は寡婦なれば男子の爲べきことも家事萬端執
 り行はねばならぬによりて一層亡人を慕はしく思ふのである○(四)此如戀忍婆
 須内爾毛一年周禮留今日波心毛千々爾亂爾氏忍婆須耳平乎汝命也明介久知食

佐幸(解)此の様に懸ひしのふうちにも、亦更に一周年の今日は、心もいろくに回想し、亂れてしのびますであらう。それを汝命は明瞭に知り給ふであらうといふ意うは一周年といへば、亡人の死去されし日の月も日も同じければ、一層深く感ずるからである。(五)然知食豆、是乃家乃内外毛、穰事無久治米志女給比、整閉志米給比、夜守日守用、佐介導支幸閉給閉止、禮代乃御酒御饌種々乃物奉里置耳、惶美惶美毛、白須(解)然様に御受納下されたならば、是の家の内外とも安穩に治めさせ給へ、家政を整齊せしめ給ひて、晝夜守護し補佐し善導し幸福あらしめ給へと、禮義の献物として、御酒御饌種々の物奉りて、惶れながら白すの意。▲親族打集比拜美仕奉留事乃状乎、安介久聞食世止、恐美恐美母、白須意隠れたる所なし。

一年靈祭詞(文例)

壁艸爾、蟋蟀啼豆、秋風乃身爾、志武音爾、驚伎豆、川水乃過來志、方乎思比、渡世婆、今日波志母、某命乃幽冥爾、退座如留、去年乃某日、那里介里、阿波禮小林乃、梢乃蟬毛、去年戀布刀、照日乃空爾、音鳴暮志、雲居吹久、初秋風毛、佐夫志美刀、月乃影爾也、吹明須良牟、況豆奴延艸

乃妻乃命、今波此家乃主刀、手弱女那賀良家乃事等、執治米都々座爾、附豆毛、朝夕爾、何事爾、附豆可波、思出忍比、座那良牟、如此戀忍婆須、内爾毛、一年周禮留、今日乃其日波、種々爾、思乱禮良、忍婆須良牟乎、御心乃内爾、汝神靈叙明介久、知食須良牟、然知食豆婆、是乃家乃内外毛、穰事無久、治米志米給比、整閉志米給比、夜守日守爾、佐介導支幸閉給閉止、禮代乃御酒御饌種々乃物奉里置耳、惶美惶美毛、白須(詳辭集下)

三年靈祭詞(用語及解釋)

◎(一)花乃、頃月乃、夕毛、君志座、佐爾、瀧美爾、思沈美豆、爲牟、術毛、無久、寄利且、語其比、別、豆波、獨悲牟、歎乃、月日重利耳、來經行久、年毛、三回利奴、(解)花を愛づる春、月を観る秋の夕も、汝命の現存し座さねば、淋しさに思ひ沈んで、奈何とも爲べきやうなく、親族家人が打寄りては、互に語り合ひ別れては、獨り亡人を悲しむその歎の月日累りて、來り過ぎ行く年も三たび回りたりとの意。▲梅花咲且、移呂比、天津雁來耳、波歸呂布、春秋毛、三年回里且、今年明治何年波志毛、某命此乃現世乎、退給比、志其

月日與里日々並耳玉筐三年乃月日毛回來解梅花云々の句は春を云ひ天津雁云々の句は秋を暗示す移呂布歸呂布の呂布は乃の延言明治何年波志毛の志は強詞毛は嘆息詞にてマアといふほどの意玉筐は三の枕詞他の意義は表れたり。

◎(二)故三年乃御祭仕奉耳半止爲耳朝毛風米耳忌回利清回利都々御靈所波拂清米耳種々乃心盡乃幣帛奉利親族家人及汝命乃現世爾在在志之時乃御友垣人打集比耳各々心乃丈止現代乃移變平告奉里拜美白左久解夙米耳は常よりも早く起き出でゝの意忌回利清回利は齋み清むること他は皆上に解きたり。▲故式乃隨々御祭式仕奉留爾依耳鎮宮乃内外毛佐夜爾搔拂比左右爾眞榭乃枝毛多和乃爾照妙取結比小瓶爾波時花色々爾挿波夜志耳神靈主乃御前拜美奉里耳畏美畏美母白左久解御前母佐夜爾は御前も清潔になり多和々爾は挽回にて枝の撓み曲るまでの意照妙は光彩ある染めない絹挿波夜爾は挿架ぬしひの意他は聞えたる詞どもである。◎(三)今更爾思出遊樂散過志花平舞奴留爾乃青葉爾惑布事乃如久影消志月乃跡間布子規爾雨爾啼波留事乃如久短夜乃假寝乃夢乃覺天爾忍奉里戀奉耳須人々乃心々平哀爾毛見會奈波志耳解汝命の死去給ひぬることと今更に思出づれば思ふにつけて散り過つる花を奪ねる鶯が青葉に惑ふことの

やうに又影消えぬる月のあと問ふ子規が雨に啼き渡ることのやうに汝命のとが短い夜の假寝して視し夢の如くにさめ難く忍び奉り戀ひ奉る人々の心を哀と見給ひての意。◎(四)今更利後毛此家乃御榮彦君姫君等乃末乃榮乎天翔里空翔里夜守日守爾守里幸爾惠導支給閉止常毛仕奉流例乃隨々某齋主止成耳是乃幣帛乃机代乃陰爾志自麻比宇受須麻里居耳畏美畏美母白須解彦君姫君は亡人の男子女兒のごと天翔里空翔里は天と空とを對句にいひたるまでにて共に空中の高き所翔留は亡魂が翔り來ること机代乃陰爾志自麻比は數多くうづ高き獻物の蔭に平伏しての意。▲今母往前毛此家始米親族乃人々乎守護利惠美幸爾給比耳子孫乃八十連屬爾幾千代懸耶耳春秋乃御祭美志冬賑々志久仕奉耳志米給閉止齋主姓名親族乃言執持耳畏美畏美母白須意義隠れたる所なし。

梅花咲豆移呂比天津雁來豆波歸呂布春秋毛三年回里耳今年明治十年波志毛某命此現世乎退給比志其月日與里日々並耳玉筐三年乃月日毛回來奴故式乃隨々御祭式仕奉留爾依耳鎮宮乃内

外毛佐夜爾搔拂比左右乃眞榊乃枝毛多和々爾照妙取結比小瓶爾
 波時花色々爾挿波夜志且神靈主乃御前拜美奉里且畏美畏美母
 白左久今更爾思出禮婆散過志花乎尋奴留鶯乃青葉爾感布事乃
 如久影消志月乃跡問布子規雨爾啼渡留事乃如久短夜乃假寢乃
 夢乃覺賀天爾忍奉里戀奉良須人々乃心々乎哀爾毛見會奈波志
 且今與利後毛此家乃御榮彦君姬君等乃未乃榮乎天翔里空翔里
 夜守日守爾守里幸閉惠導伎給閉止常毛仕奉流例乃隨々某齋主
 止成且是乃幣帛乃机代乃蔭爾志自麻比宇受須麻里居且畏美畏
 美母白須(詳辭集下)

祖靈祭祀詞(川語及解釋)

◎(一)吾母命乃神靈乎始米遠津代々乃親等乃神靈乃前爾嗣孫某膝折伏世且白左
 久(解)する所なし▲遠津御祖乃御靈代々乃御祖等親族乃御靈總氏此乃家用陸備
 親米留諸乃御靈等乃御前爾白左久意義聞えたるが如し◎(二)一已某等今日乃

生日乃足日麻痺飢留事無久寒留事無久倭文機乃糸心裏安久住居來都留毛皆世
 々乃親等乃恩頼爾據留事止奈毛惡美辱美親族九親相集氏廣伎厚伎御恩惠乃百
 千我一乃報賽乃心裏加里乃禮代止解倭文機乃糸てふ詞に係りたる枕詞にて
 糸は最の假字ウラは字の如く心の意親族九族親族は親類又親屬ミウチのこと
 九族は直系の流即ち高祖曾祖祖父己子孫曾孫玄孫をいふ報賽は返禮の意他は
 聞えたる詞◎(三)一二年乃今日乎吉日乃吉時乃撰定且是乃小床乎伊豆乃磐境
 斗掃清米且五百津眞榊爾木綿取垂且禮代乃幣帛止解五百津眞榊は枝の繁茂し
 たる榊のことにて眞は例の稱讚言木綿は紙を裁ちて下ぐるをいふ他は上に
 出たり▲今日遍年久例任爾某月乃御祀奉事乃之且遠津御祖四等祖等能御靈乃
 御前爾(解)遍年久は毎年々々といふ意例任爾は例に依りての意四等祖は高祖曾
 祖祖父をいふ他は聞えたるが如し◎(三)忌齋滿並倍和稻籾稻海川山野乃御櫻葉
 物時乃花乎毛取添且進其久乎平介久丹乃穗爾開食且解忌齋は齋清めたる聖の
 意◎(四)家内秘爾子孫乃八十連續彌遠長爾異伎賤志伎心在世受志且家門高久廣
 久榮由倍久守給比幸給比意聞えたるが如し◎(五)年月毎乃御祭乎美久販々志久
 令仕奉給比御祖等乃依左志賜倍留家乃財產乎毛散其須事無久失布事無久万世

◎祖靈祭祀詞 文例

爾令受傳給閉止畏美長(美母)白須(解)每年毎月の御祭を美しく賑々しく仕奉らしめ給ひ又御祖等の子孫に寄せ遣し給へる家の財産をも散す事無く失ふ事無く万世に承け傳へさせ給へと畏れ畏れて申すとの意

祖靈祭祝詞(文例)

嗣孫某膝折伏世氏白須今日年遍久任例爾二月乃御祀奉事刀之
氏遠御祖世等祖等能御靈乃御前爾忌饗滿並倍和稻蠶稻海川山
野乃御饗如横山引居置氏進良久乎平加爾丹乃穗爾聞食氏親戚
諸人參集比御酒乃於呂之甘美爾飲比酒幣物喫賃手掌母擢亮爾
拍上流止諸共爾相共爾御心毛宇良宜所看氏子孫乃八十連屬明
直伎淨正伎真心乎以互君父爾令奉事負持氏名不穢祖名不落家
業給足良比家門高久廣久妻子眷族僕從爾至麻傳堅磐爾常磐爾
壽長久平久安久日爾異爾守幸給反刀嗣孫某拜美畏未氏白(諱辭
集下)

改葬祭詞(用語及解釋)

◎(一)發詞(諡號)乃前爾姓名畏美長(美母)白左久(解)發詞の解は前に出でたり諡號は後のおくり名である。△此乃所乎心安支美志所止墓所齋定米耳座奉利鎮奉禮爾某命乃與墓乃前爾某恐美恐(美母)白左久(解)する所なし△此乃墓所乎傾知支座須吾家乃遠支先祖遠乎始米某命止仰奉利座奉爾母命乃御靈乃前爾姓名畏美長(美母)白左久(解)する所なきが如し但この詞どもは先祖代々の墓所の前に申す詞である。うの母命の語は假に設けたる詞なれば事に應じてはめかへるのである。◎(二)汝命遠乃最惜志支御死骸乎理米奉利志當時汝遠支世爾鎮座佐(與)墓止信賴美互(汝)古(實)鎮奉利座奉利志加(解)當時はその時といふこと遠支世は永遠未代の意信賴は永遠に動すべからざる墓所と信じ頼みての意古會は志加の係詞にて志加は過去を示す時の古會の結詞である他の詞は皆上に出たる詞である。◎(三)阿波禮汝命乃此現世乎避里給比志年與利今年麻傳幾年乎經太利(解)アア、汝命の此の現世を避り座した即ち死去なされた年から今年まで幾年經過せりとの意。◎(四)此乃幾年乃春秋乃内爾汝世中乃形狀及國內乃事業種々爾移里變里耳昔那實耳乃心乎以互思比見禮(汝)物每爾見驚支事每爾聞愕久事狀那(實)耳汝命毛(曲

◎改葬祭詞 用語及解釋

冥與里見開給比耳如此開氣如是改里行久事狀乎奇志止毛珍其志止毛樂志止毛
 宇牟賀志止毛所思事有倍志(解)昔奈賀其は昔のまゝの意宇牟賀志はうれしとい
 ふほどの意さてこの段及以下は今回改葬の止むなき所以の事狀を奉告するの
 であるから、これは唯その一例のみ、時に應じ事によりて適當の語と差代あるので
 ある。(五)今回此乃某處與利某所所傳乃何々乎作留賀爲爾其道爾障留墓等波皆
 他所爾移志治牟留事止奈禮里(解)此も改葬の止むなくされたる所以の事柄であ
 る。故に公の家を建つるか、或は公園を作るとか、又は道を開墾するに障るとか、
 鐵道の線路とするに差開あるとか、種々の事情の止むを得ざるものなるべし、其
 を書くのである。(六)故甚久畏支事奈賀其拒美毛敢開奴國乃義務止畏美都々毛
 御骸乎變某所爾移奉利耳平介久安介久鎮米埋米座奉其牟止須(解)これは舊墓所の
 御前にて墓所を移さるべからざる理由を奉告する詞である。故親族家人等
 波甚畏美款支隣路比都々波在禮村毛公乃人乃爲止耳泣久々々毛御墓所乎新志
 久此所爾定米耳汝命乃御骸乎移奉利耳改米葬里鎮奉利奴(解)これは新墓所にての
 詞なるが意は詞の上に表はれて居る。(七)故禮代乃机代乃物捧銀耳祭事仕奉利
 拜美奉留事狀乎天翔留神靈乎相宇豆那比給比是久仕奉留爾依利耳手人等賀自

然禮無久過犯志皇牟事等波廣支御心爾見直志聞直志坐耳今與利後遠永久生子
 乃八十連續參來拜美仕奉其志米給爾止畏美畏美母白須(解)手人は職人のことに
 て、新に墓所を築くに使役したる人々をいふ他の詞は上に出てたり。故此乃墓
 所乎美志善支所清安住處止心安久宇牟賀志久所思召耳彌遠永久領知座志耳子
 孫乃參來拜美奉留事乎平介久聞食受給爾止畏美畏美母白須意義明瞭。

父翁墓改葬祭詞(文例)

後乃御名波彌足功績道根大人止申志耳仰奉留知々乃實乃父命
 乃與墓乃前爾本居豐額畏美拜美毛白左久安波禮父命此現世乎
 避里給比志年與利今年麻傳三十年乎經多里如是來經往久年月
 乃間別豆明治乃今乃大御代止成奴留此十餘年乃春秋乃内爾波
 世中乃形狀及國內乃事業種々爾移里變里耳昔那賀良乃心乎以
 豆思比見禮婆物每爾見驚支事每爾聞愕久事狀那留乎父命乃靈
 毛幽冥與里見聞給比耳如是開氣如是改里行久事狀乎奇志止毛

珍良志止毛樂志止毛宇牟賀志止毛、所思事有倍志、今回此品川乃
驛興利、川口乃地麻傳乃、車走良須留鐵乃道墾作留止、其道爾障留
墓等波、皆他所爾移志治留事奈留賀故爾、甚畏氣禰村、御骸乎毛更
仁此所爾移志治米鎮米奉利奴學祖奈留縣居大人乃與都伎毛前
爾移志改米治米志乎、今此地爾移志座世二回縣居大人乃墓間
近久成奴留毛自然奇伎契止申須倍之、故禮代乃机代乃物捧氣且
祭事仕奉利拜美奉留事狀乎、天翔留神靈毛相宇豆那比給比、如是
仕奉留爾依且手人等賀自然禮無久過犯志氣牟事等波、廣伎御心
爾見直志聞直志座且、今與里後遠永久生子乃八十連續參來拜美
仕奉良志米給邊止、畏美々美毛白須、辭集下百八十四

用例語 祝詞作文集成終

神道は、我が國固有の徳教なり、建國の精神是に本つき、國民の元
氣爰に存す、故に外來の教學も、未だ曾て斯の道の根底を動すに
足らず、一旦緩急あるに際しては、即ち事に發して、人心の歸向を
一にす、願ふに、明治維新の大業、亦此の精神によりて成り、斯の道
大に興れりし感ありきといへども、世態の推移と共に、後者前人
の跡を襲かず、漸く陵夷して、今日に至れり、實に奮慨に堪ふべけ
むや、仍て思ふ、現今神道の振はざるは、其の人に乏しきに由る、方
今の急務は、教師其人を養成するに急なるはなし、此の片々
たる小冊子、固より之れを濟ふに足らざれど、祭儀作法を始め、神
道教義に關するもの、又は普通學にも及び、聊その缺を補はむと
して、編述せるものは、是れこの講義録なり、教師養成につき、重大な
ることは、他日に譲り、こは洵に、斯の道に入り立つ楷梯に過ぎざ
れど、爲さざるに優れば、さて、此度會員を募集し、その講習の資料

にこて發行することになりたればそのゆるよしを巻尾にしるす。

明治三十七年十一月

神崎一作

明治三十七年十一月廿八日印刷
明治三十七年十二月一日發行

編輯者

東京市麻布區筈町百三十九番地

神道教教師講習會

代表者

神崎一作

印刷者

東京市神田區淡路町一丁目二番地

川越重敬

印刷所

東京市神田區表神保町十番地

大島活版所

187

256

